



QFN 通信

Qshu Forest Network News

NPO 法人 九州森林ネットワーク

巻頭文 理事長 北里 耕亮

第 14 号 since2005.6.1

新緑の候、みなさまにおかれましては、いかがお過ごしでしょうか。第 14 号の九州森林ネットワーク通信(QFN)をお届けします。

国内での木材自給率 50% を目指して、林業再生プランがスタートしました。それにともない、現在全国各地で、森林施業計画から森林経営計画（施業の集約化を行い面的にまとまった森林について、木材生産活動だけではなく、森林の公益的機能の十分な発揮に資する持続的な森林経営を確立することが目的。）への変更が進められていることと思います。そこで本会の会員でもあり、熊本県小国町における林業の担い手組織である、小国町森林組合の取組を紹介させていただきます。

現在、65 団地から形成されている約 10,000ha の山林を 11 団地へ再編し、集約化した団地計画の実施認定化に向けた手続きを進めています。組合員の方との森林経営委託契約件数は約 900 件で、契約面積は 6,000ha を越えています。人工林における受託率の割合は約 8 割弱となっています。このうち杉と檜の面積が約 5,000ha で、年間 350ha を目標に施業を実施して行く予定です。

また、これまで間伐が多かったこの本地域でも成熟した立木が増加しており、林層を平準化し作業の効率化を図るため、皆伐による更新も同時に促進して行く必要があります。そのため小国町では、林家の負担を軽減する方策として、皆伐後の再造林費用の一部と、再造林後の下刈費用の補助を平成 24 年度から実施しています。

これまでコスト面や森林の育成方法の相違から高性能林業機械による伐採作業は小面積でしたが、これからは作業者の確保や効率化のため高性能林業機械を使つての作業も進めていきます。そのため森林組合も職員を採用しており、将来の小国林業を支える作業者の見本となってもらいたく、小国町としても全面的にバックアップしています。

小国町は、地の利に恵まれた素材を最大限に活かし、安定した木材の生産を目指すことで林家が潤い、作業者やその関係者の雇用が増加し、これまで同様「小国杉」が町のシンボルとして、より一層輝くように頑張つて行きます。

最後になりましたが、5 月には宮崎県諸塚村で「第 18 回九州森林サミット」を計画しています。会員をはじめ多数方の参加をお待ちしております。

発行日 2012.xx.xx

<発行>

NPO 九州森林ネットワーク

本部：宮崎県諸塚村

<編集責任>

大分・上津江オフィス

【目次】

第 1 回会員向けプレミアム
研修会の報告 P.2~P.4

QFN 通信便り P.5

第 18 回九州森林フォーラム

IN 諸塚村のお知らせ P.6



会員向け第1回プレミアム研修会 平成24年10月5日～6日

「潜む地域の危機に私たちができること」

～日常化する大規模災害に対応する地域力の醸成の条件とは～

NPO 法人九州森林ネットワークもおかげさまで設立5年目を迎えます。これまで17回にわたる九州森林フォーラムを九州全域で開催するなど、様々な取組を実施してきました。ついでに、今年から総会の時期に、会員の皆様の活動実態の相互理解を図ると共に、今後のNPOの在り方を考える場として、会員向けプレミアム研修会を企画することになりました。

第1回目の今年は、今年7月に九州北部豪雨という大変な災害がありました福岡県八女市黒木町で実施します。主要メンバーである当NPOの小森耕太理事(黒木町「山村塾」主宰)の全面的なご協力で、現地視察を行い、災害に直面した場合の地域の在り方、課題のご提起をいただくほか、頻発する自然災害に対応するための地域力の醸成への課題について話し合ってきました。

第1部 10月5日(金) 黒木町笠原地区 現地視察

山村塾主宰 小森耕太理事の案内で、笠原地区の被災現場を視察しました。



第2部 10月5日（金） 報告「大規模災害に対応した地域の在り方」

山村塾主宰 小森耕太理事 及び 八女市黒木総合支所総務課 藤田課長より、九州北部豪雨時の笠原地区の状況、八女市の対応について説明して頂きました。



第3部 10月5日（金） 記念撮影と交流会

九州森林ネットワーク会員 及び 笠原地区の皆さんと交流会を行いました。



第4部 10月5日(土) 討論会「地域力の醸成について」

地域力の醸成について、グループ分けをし、各グループにて議論を行いました。



おまけ 10月5日(土) 映画鑑賞会「TAKING ROOT」

九州森林ネットワーク会員 及び 笠原地区の皆さんと映画鑑賞をしました。



QFN 通信会員便り

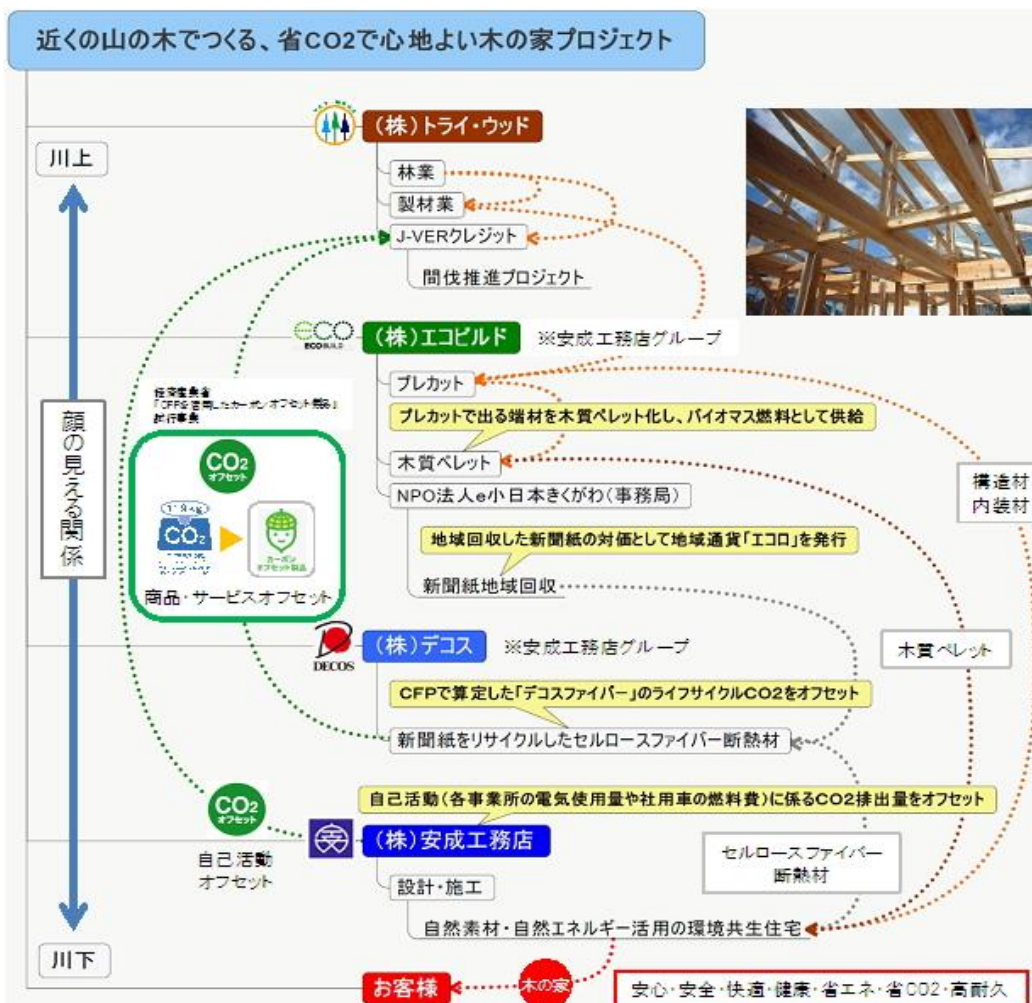
第2回カーボン・オフセット大賞 優秀賞受賞について 株式会社トライ・ウッド 渡邊 雄一郎

九州森林ネットワークの会員企業である株式会社トライ・ウッドのパートナー企業である株式会社デコス様(代表取締役:安成信次、山口県下関市、安成工務店グループ)が、トライ・ウッドと連携して取り組んでいる『近くの山の木でつくる、省CO2で心地よい木の家プロジェクト』にて第2回カーボン・オフセット大賞 優秀賞を受賞しました。

株式会社デコス様が製造・販売している建築用断熱材「デコスファイバー」の算定カーボンフットプリント(CFP)と同量のクレジットを使ってカーボン・オフセットを実施する事で、製品のライフサイクルでのCO2排出量を実質的にゼロにするという日本初の試みが高く評価されました。

カーボン・オフセットに使用されるクレジットは、九州森林ネットワークで取り組み始めた『日田市上津江町間伐推進プロジェクト』によって創出されたJ-VERクレジットを活用致します。

また、安成工務店グループでは、『近くの山の木でつくる、省CO2で心地よい木の家プロジェクト』として上記取り組みの他に、株式会社安成工務店様が1年間に使用する各事業所の電気や社用車の利用によって排出されるCO2量(約400トン)に対してもカーボン・オフセットを実施しており、そこで活用されるクレジットも九州森林ネットワークで取り組み始めたJ-VERクレジットを利用しています。



第18回九州森林フォーラム IN 諸塚村 開催のお知らせ

九州森林ネットワークのオフィシャルホームページ：<http://www.geocities.jp/shinrin9net/>

■日程：平成25年5月17日（金）～5月18日（土） ■会場：諸塚村中央公民館

■テーマ：「地域が活きる林業の未来を問う」～美しい森林は誰のものか～

昨年の全国的な国産原木価格の暴落は、円高ユーロ安で外材流入、商社の製品在庫のだぶつき、国有林の大量伐採、建築需要の減退、BC材の増加など様々な表層的暴落原因が言われるが、「木材製品の販売不振」と「原木価格の暴落」の視点で分析すると、製品価格の下落は小さいなかで原木の暴落が起こっていることが解る。

深刻なのは、製品販売の不振なのに原木の供給過多が進んでいることで、主な需要先である住宅着工数は減少しているのに、どこかで「森林資源は余剰だから、消費するべき」という論理によって出材圧力にドライブが懸かり、山元では需要を無視した伐採計画が進んでいる。「コストダウンには機械化が必須」と、高価な大型機械を導入し、資金繰りもあって大規模な伐採が増えている。

肝心の対策は、いつの間にか「需要を開拓することが大事」という論理にすり替わり、「木材自給率50%」を目標に、成長戦略として木材産業の大量生産政策が進むが、これは林業業界だけ限定的で、流通業界や建築業界には訴求していない。人口減社会で資本ストックの過剰は明らかで、これ以上の需要が喚起はできるのか。合板、製紙の原料の国産材化とバイオマスの普及をいうが、その原料価格は建築材よりはるかに安く、これも原木価格の更なる暴落を招く危険性をはらむ。

一方、健康志向、安全・安心、環境保全への要求は大きく、その意向にマッチした商品は堅調に消費される実態をみると、単なる増産政策だけでなく、ユーザーの要望を的確に把握し、そのニーズに合った商品の販売促進を図るべきであろう。

森林は多種多様であり、地域の実情を加味し、単なる数字や経済論理、市場原理だけで森林を計算するのではなく、山村地域の資源を限りあるものとしてヒューマンなスケールでとらえ直し、地域のなかで持続可能な森林・林業の構築を目指すべきではないか。農林家の経営とは何か、美しい森林を活かしつつ、そこに住まい、生業を続ける人たちの未来はどうあるべきか。

世紀を超え林業立村を標榜する諸塚村で、地域が活きる近未来の林業の新しいビジョンを模索する。

■主催：NPO法人九州森林ネットワーク

■参加費：フォーラム資料代：1,000円（会員無料） 現地見学会：2,000円（昼食付）

※交流会費：4,000円 宿泊代：民宿又は農家民宿 5,000円（1泊朝食付）

■プログラム：

5月17日（金）	セミナー・交流会	13:00～19:30
講演①「美しい森が、日本の林業を救う」 講師 田中淳夫氏（森林ジャーナリスト）		
講演②「森林経営計画を活用した新しい地域型林業を！」 講師 後藤國利氏（前大分県臼杵市長）		
パネルディスカッション 耳川広域森林組合・甲斐若佐組合長 NPO法人森をつくろう・佐藤和歌子理事長 宮崎大学農学部・藤掛一郎教授 九州大学農学部・佐藤宣子教授		
5月18日（土）	現地研修会	09:00～13:00

■問い合わせ先：NPO法人九州森林ネットワーク事務局（宮崎県諸塚村 企画課内）

TEL:0982-65-1116 FAX:0982-65-0032 メール:kikaku@morotsuka.jp

■申込締切：平成25年5月9日（木）